

科目名称：	子ども家庭支援論	
担当者名：	東方 珠美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
子どもは、家庭、地域社会、社会制度という環境の中で育つと言われている。その子育てをする家族に焦点を当て、現代の家族が抱えている問題や課題を探りながら子育てを取り巻く環境を理解し、子どもの幸せを実現することを望み、安定した子育てのための家族支援、地域の子育て支援を学ぶ。子育て支援に関するの基本的な理解を深める。		
授業の達成目標・到達目標		
1. 子育て家庭を取り巻く現状を把握し、子育てをめぐる問題とその背景について理解する。 2. 現代社会における子育て家庭の支援体制について理解する。 3. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と保育所や地域との連携について理解する。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)		60%	40%		100
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》 25年
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
知識	講義で学んだ知識を活かして積極的に講義に参加できる	講義で学んだ知識を活かして講義に参加できる	講義で学んだ知識を組み合わせて考えることができる	講義で学んだ知識を組み合わせて考えることができない
子ども家庭支援についての知識を深める	子育て家庭を取り巻く社会の現状に問題意識をもち、自らの学びに積極的に取り組む	子育て家庭を取り巻く社会の現状に目を向け、自らの学びに積極的に取り組む	子育て家庭を取り巻く社会の現状に目を向け、自らの学びの中に取り入れる	子育て家庭を取り巻く社会の現状に目を向けるが、学びに取り入れることができない
学びへの積極性	話を聞く態度がよく、質問や意見を述べる	話を聞く態度がよく、質問や意見を時々述べる	話を聞く態度がよく、質問されれば答える	発表や意見を言うことができず、私語や居眠り等をしている

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 授業内容の説明と進め方 子ども家庭支援の必要性と機能	子育て支援の教科書を読み直し、さまざまな家族があることを確認しておく。	40分
第2回 子育て家庭を取り巻く社会の現状(グループワーク)	現代の子育てにおける悩みについてネット検索し情報を集める。	30分
第3回 子育て家庭に対する支援の体制	子育て支援における体制を調べておく。	30分
第4回 子育て家庭の福祉を図るための社会資源(グループワーク)	子育て支援における社会資源を調べておく。	30分
第5回 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	保育園でできる支援とはどのようなものかを実習等で感じたことを思い出しておく。	30分
第6回 子どもの姿を捉えるⅠ	子どもの姿を保護者に伝えるために文章や絵でまとめる。	20分
第7回 子どもの姿を捉えるⅡ(発表)	発表できるように準備を進める。	30分
第8回 確認テスト 「保護者に伝える難しさについて」	社会資源について学んだことを理解しておく。	30分
第9回 保育士に求められる基本的態度、信頼関係の形成	保育所保育指針の保護者支援の部分を読んでおく。	30分
第10回 子ども家庭支援の内容と対象	どのような家庭があるか調べておく。	30分
第11回 保育所を利用する子ども家庭への支援ー保育所の特性ー	子どもの年齢ごとの支援とはどのようなものがあるか考えておく。	30分
第12回 地域子ども・子育て支援事業ー親子の交流の場での対応ー	県内で行われている子育て支援の親子の交流の場を調べておく。	30分
第13回 要保護児童等及びその家族に対する支援(グループワーク)	保護を必要な子どもについて調べておく。	30分
第14回 要保護児童等及びその家族に対する支援(グループワーク)	グループワークでの発表の準備をしておく。	30分
第15回 子ども家庭支援の今後の課題 小テスト	今まで学んだことを理解しておく。	30分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 確認テスト・小テスト60%、授業内での取り組み、発表40%		
課題に対するフィードバック		
確認テスト・小テストは説明後、評価して本人に返却する。 授業内の課題については返却しない。		
教科書・参考書		
参考書：子育て支援 「子どもが育つ」をともに支える(北樹出版) 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		